

令和元年度 学校経営計画

1 学校教育目標

(1) 教育目標

より高きをめざす「尚美」の精神に根ざし、豊かな教養を身に付けさせ、ものづくりを通して新しい時代の創造をになう、自主自律の気風に富んだ健康でたくましい人材の育成をめざす。

(2) 教育方針

- ア. 学力を充実させ技術の練磨を図る。
- イ. 公正な判断力を身に付けさせるとともに社会性を育成する。
- ウ. 礼節を重んじ、心身を鍛える。
- エ. 勤労意欲と責任感の涵養を図る。
- オ. 豊かな感性を育むとともに個性を伸ばし、創造性の育成を図る。

2 学校の特徴

本校は、平成22年4月より二上工業高校と統合し工業系5科、芸術系2科を持つ工業系専門高校として、より高きを求める「尚美」の精神のもと、ものづくり・作品づくりを通して生徒の人格陶冶と自己実現を旨とする教育活動の実践を目指している。一人ひとりの生徒が、普通教育と専門教育の調和と深化を図ることによって、知性を磨き、部活動をはじめとする特別活動を通して人間性や体力の育成に努め、健全な精神と創造性豊かな感性を持って社会に貢献する人材となるよう指導し支援している。

また、「青井中学生美術展」や地域のイベントに参加するなどものづくりの交流を通して地域との連携を深めるとともに、新実習棟の全面完成を契機とし、総合的な工業科高校としての、「ものづくりの中核校」「地域のものづくりの拠点」となるよう魅力ある学校づくりに努めている。

3 学校の現状と課題

人間力豊かなものづくりのスペシャリストである工業人の育成を目指す本校の教育活動は、学力向上のための学習活動、高校生として「けじめ」ある行動・態度がとれる生徒指導、望ましい職業観を身につける進路指導、生徒会活動や部活動等の特別活動指導などの核となる活動が相乗的に効果を上げるように教育活動を行っている。

しかし、生徒の中には、進路に対する明確な目標を見いだせない生徒も若干いるのが本校の現状である。

このような状況を鑑み、将来に対する目標を明確にさせ、その達成に向け、学校生活を意欲的かつ継続的に取り組ませることが課題である。

- ・総合的な工業科高校として、「ものづくりの中核校」となるよう、地域産業界や大学、研究機関等との連携を深めた学習活動を実践し、将来のものづくりのスペシャリストである工業人の育成を目指す。
- ・互見授業や生徒による授業評価の実施により授業の改善に努め、学習意欲を引き出す指導方法や評価、学力向上のための学習時間確保の対策等を検討する。
- ・各学科では、1年次において、学科横断の「ものづくり学」を実施するとともに、各学科の特性を生かして専門性の深化を図り、2年次からのコース制や専門技術者等による授業等を実施し、魅力ある工業教育の展開を目指す。
- ・「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善を実施し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。
- ・学校と家庭の情報の共有を図り、生徒としての節度ある行動・態度がとれる人格形成を目指した生徒指導を推進する。
- ・98%以上の生徒が部に所属（兼部含む）しており、部の活躍や活動の勢いが学校の活性化に大きく貢献している。また、学校行事に対しても多くの生徒が積極的に取り組んでいる。
- ・2年生全員によるインターンシップの実施により、早期からの望ましい勤労観・職業観を育成するとともに、生徒の多様な進路希望が実現できる進路指導を推進する。

4 学校教育計画

項 目		目標・方針及び計画	
1	学習活動	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲の向上と専門知識の習得に励み、工業人としての基礎を確立するとともに、自ら学ぶ意欲の向上を目指す。 ・検定や資格取得の充実及び各種コンテスト・コンクール等への挑戦。 ・普通教科と各専門学科との連携により、家庭学習の習慣化を推進する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">重点1 ①</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">重点1 ②</div>	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>基礎力診断テストを実施し、生徒の学力の分析を進め、各教科間の連携を図り、工業科の生徒として必要な基礎学力の充実に努める。</u> ・<u>公開授業の実施と授業見学・互見授業の実施。</u> 担当授業を年1回以上公開する。また、他の教員の授業を年1回以上見学し、授業内容を改善する。 ・朝学習を通して学習時間を確保し、学習習慣の定着と基礎学力の向上を図る。
2	学校生活	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯・タブレットなどの普及に伴い、生徒の取り巻く環境には事件、事故、いじめなど多くの危険が潜んでおり、生徒がトラブルに巻き込まれることのないように努める。 ・登下校の交通事故を未然に防ぐために、常に命の大切さを伝え、正しいモラル、マナーを伝え、生徒自らが危機管理の意識を高める。 ・意欲的かつ積極的な学校生活を送るための基本的な生活習慣を確立し、生活の乱れによる遅刻・欠席・早退をしない、規則正しい生活ができる。 ・朝のあいさつ運動、日常の生活指導を通して「けじめ」ある行動・態度と高校生らしい服装やマナーを身に付ける。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">重点2 ①</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">重点2 ②</div>	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>SNSの複雑化にともない、生徒がトラブルに巻き込まれないように教育委員会と連絡を密にし、生徒の危機意識を高める。</u> ・常に情報収集を行い、生徒の危機管理能力の向上に努める。 ・<u>自転車事故の発生地点の生徒への周知や自転車点検や交通安全教室の実施を通して、安全な登下校の意識を高める、交通事故の減少を図る。</u> ・担任や学科、部顧問との連携を密にした面接指導を充実し、遅刻者の減少を図る。 ・全教職員の共通理解のもと、授業開始時や休み時間、放課後の部活動等、折に触れての継続的な服装指導により、服装違反者の減少を図る。 ・定期健康診断等の結果や生徒保健委員会の活動を通して、健康に関する情報を発信し、健康保持のための自己管理を促す。
3	進路支援	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が、自らの勤労観・職業観に基づいて、主体的な進路選択ができる能力を育てる。 ・進路選択を通じて、主体的な自己実現を図る。 ・インターンシップの充実、推進を図り、生徒一人一人のキャリアアップを実現し、進路選択時のミスマッチを低減する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">重点3 ①</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">重点3 ②</div>	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>生徒の自己理解と学習能力の伸長を図り、礼儀ある行動を身に付け、社会人としてのあり方、生き方を自覚し、将来の生活設計ができる職業観を養う。</u> ・工学系進学者を対象とした「基礎学力講座」等の特別指導を実施する。芸術系進学者の学力補充に対しては外部講師・土曜学習を通じ進路指導を早期から実施できるシステムを構築する。 ・<u>適性検査の実施や、面接指導を充実させ、進路について考える機会をより多く設定し、専門に関係する就職・進学の割合を高くする。</u>

項 目		目標・方針及び計画	
4	特別活動	目標	<ul style="list-style-type: none"> 部活動加入率85%以上を堅持するとともに部活動を変更する生徒数を40名以内を目標とし、部活動と学習との両立を図る。 各学校行事終了後、評価の調査を行い、満足度85%以上を目指す。 読書を推奨する活動を充実させ、図書館利用のマナーを培うとともに、読書への関心・意欲を高め、主体的な読書習慣の定着を図る。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-bottom: 10px;">重点4 ①</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">重点4 ②</div>	計画	<ul style="list-style-type: none"> 定着化する学校行事や活発な部活動について、生徒へのアンケートを実施し、その満足度や充実感を調査し、分析を行う。 生徒会が中心となり、各行事に対する生徒への事前アンケートを実施して、生徒の意見の把握に努め、諸活動及び生徒会の活性化に努める。 集会や生徒会による広報活動を通して、大会日程や成績の広報に努め、学校全体の雰囲気や生徒の士気を高める。 部顧問間の連携や家庭との連携を密にし、活動しやすい状況の設定に努めるとともに、部活動を継続する意欲を支援する体制作りを努める。 教職員間の体制を検証し連携の強化と協力体制の維持に努める。 読書に対する広報活動を拡充し、図書館利用の充実と読書率(図書貸出し数)の向上を図る。 1, 2学期末に全校一斉の朝読書週間(年2回)の企画や教養講座などの実施により、全生徒が本に親しむ機会を設定する。 国語科との連携やビブリオバトルの実施により、図書館を活用した授業の展開や読書を促す指導を推進する。 図書館だよりを発刊し(年9回)、推薦図書、新着図書の紹介等、読書に関する広報活動の充実を図る。
5	その他	目標	<ul style="list-style-type: none"> 家庭と学校が連携を強め、共通理解のもとに活発なPTA活動を目指す。 開かれた学校づくりに努め、地域との連携・交流を推進し、地域の方々より学校運営等について意見を聞く。 新コンピュータ実習室の活用を促進し、情報教育の活性化を図る。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">重点5</div>	計画	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事等に合わせたPTA行事を計画し、保護者の参加率の向上を図る。 PTA役員会の出席率を高め、役員としての意識の向上につなげる。 参加しやすい役員会の持ち方や、役員相互のつながりを強化する取り組みを検討し、役員の関わり度を増加させる。 PTA、同窓会、学校評議員、地域諸団体等に学校ホームページなども活用して、本校の教育活動を広く紹介するとともに、地域との連携を深める。 新コンピュータ室の利用促進、グループウェアを使用した予約システムのスムーズな運営の向上を図る。 視聴覚機器の状態を把握し、最適な教育環境を維持するよう努める。

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

2019年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -1-		
重点項目	学習活動	
重点課題	基礎学力の定着と授業改善の推進	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育範囲の学力が未定着であるとされる生徒(Dゾーン)が37%程度(1月の基礎力診断テストで1学年39.3%、2学年33.7%)おり、中でも最低レベルのD3ゾーンに1学年10.1%、2学年5.4%いる状況である。Dゾーン、特にD3ゾーンの生徒は基礎的な学力が不足していることから、授業について内容を十分理解できないことが考えられ、中学校までの基礎的な学力を確実に身に付けさせる必要がある。(昨年度、基礎学力向上委員会を設置。昨年同期Dゾーン全体で40%、D3ゾーン1年15.8%、2年8.7%) ・次期学習指導要領では、生徒達の能動性を重視する主体的・対話的で深い学びの視点から、従来の一斉指導的な授業を改善し、思考力・判断力・表現力を育成する授業への改善を求められている。そのため、各教科・科目の担当者は授業において、生徒の実態を踏まえながら能動的な活動となるように指導方法を工夫し、改善を進めていく必要がある。 	
達成目標	基礎力診断テストの実施と分析 <ul style="list-style-type: none"> ・1年生・2年生全員を対象として定期的に基礎力診断テストを実施する。 ・D3ゾーン(義務教育範囲未定着とされる最低ゾーン)の割合を0%とする。 	公開授業の実施と授業見学・互見授業 <ul style="list-style-type: none"> ・担当授業を年1回以上(1,2学期間)公開する。 ・他の教員の授業見学を年1回以上行う。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎力診断テストの結果を踏まえ、情報交換し関係教科で連携し対策を講じる。 ・基礎力診断テストを学期毎に行うことで、学力の定点観測を行い、小さな目標を増やすことで、継続的な学習を行わせる。 ・朝学習(今年度より3教科)を通して学習時間を確保し、学習習慣の定着と基礎学力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自で担当する授業を公開する日時を掲示板で案内する。 ・公開授業を見学し、気づいたことや感想などを授業担当者に渡す。 ・互見授業により、自身の授業を改善する。 ・実施率向上のために各学期に実施月間を設け意識向上を図る。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

2019年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -2-		
重点項目	学校生活 ～自律から自立へ～	
重点課題	基本的な生活習慣の確立と危機管理能力の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSの普及に伴い、利用マナーやモラルの欠如により事件、事故、いじめなど多くの危険が潜んでいる。県教育委員会との連携によるネットパトロールの報告、情報提供などを受け、生徒がトラブルに巻き込まれることの未然防止に努めている。しかしながら、SNS環境はますます複雑になっており、常に情報収集を行い、生徒の危機管理能力の向上に努めていかなければならない。 ・交通事故件数は、昨年は目標件数を下回り、幸いに大きな事故も起きていない。しかし、いつ命に関わるような重大事故が起きるかは分からないし、加害者になるとも限らない。常に、命の大切さはもとより、モラル、マナーを高め、生徒自らが危機管理の意識を高めていくよう指導していかなければならない。 	
達成目標	ネットパトロールの報告件数の削減 ・年間報告件数 20件以下	交通事故件数の削減 ・昨年度発生件数(年間 7件)以下
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・各集会毎にSNSに関する情報提供 ・「心」の教育、モラルとマナーの指導 ・「いのちの大切さ」を学ぶ教室の実施 ・個別指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・各集会毎に交通安全指導 ・自転車点検による安全意識の向上 ・交通安全教室の実施(1年生) ・個別指導

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

2019年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -3-

重点項目	進路支援	
重点課題	生徒各人が、学校生活をとおり、よりよい勤労観・職業観を身につけ、主体的に進路を選択し決定できる力をはぐくむ	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部では、生徒一人一人の能力や適性に合わせた進路指導を目指しているが、進路担当者と生徒との接点がない(担当授業、部活動)等で就職や進学を選考会議で名前を出されても、どのような生徒か把握していない状況がある。 ・進路指導室には、就職や進学に関する資料があることを生徒には伝えているが、それらを十分に、活用しているとは言い難い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業の就職選考試験は9月16日より開始され、今年度は約139名が民間企業への就職を希望している。 ・民間企業への就職希望者の第一次選考における不合格者数は、平成27年度8人(127/135)、平成28年度9人(116/125)、29年度4人(139/143)、平成30年度4人(129/133)であった。
達成目標	3学年生徒の進路指導室延べ利用回数	就職希望者第一次選考での不合格者数(民間)
	1000回以上(一人平均3.7回以上)	8人未満
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・開かれた進路指導室を目指して、クラスごとに各資料の在りかや調べ方などの説明を行う。 ・進路希望先を決定する前に、進路指導室に相談に来るように指導する。 ・3学期に資料の確認、先輩の報告書の確認、進路相談等のための進路指導室利用回数をアンケートで調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各企業が求める人物や適性などをしっかりと、生徒に知らせる。 ・適性検査を実施して、その結果より本人の適性、能力について考えさせる。 ・面接時に本人の魅力や考えを十分に伝えられるように指導する。 ・多くの先生方から面接の指導が受けられるように指導計画を組む。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

2019年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -4-

重点項目	学校生活	
重点課題	学校行事および部活動の充実	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会、尚美展、球技大会などの学校行事の満足度アンケートの結果は、概ね80%を超えている。各行事前にはアンケート調査を実施して、代議員による生徒議会も行っているが活動が十分とはいえない。生徒議会を活性化させ、生徒会執行部と各委員会の連携を強化することが今後の課題である。 ・部活動等への参加は活発で、年度当初の特別活動加入率(生徒会を含む)は97%(兼部を含む延べ人数)を超えている。しかし、中途退部や活動が主体的ではない生徒も一部に見受けられる。昨年度の部活動退部者は約42名(内9名が部変更)であった。退部者の減少、退部した生徒の転部率を増加させることが課題である。 	
達成目標	主たる行事において満足と回答する生徒の割合	部活動変更生徒数
	85%以上	40名以内
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・行事ごとに、アンケートの集約を行い、満足度を調査する。また、代議員を通じて、事前アンケートを実施し、生徒の意見集約に努め、活動および生徒議会の活性化を図る。 ・各行事における教職員の体制を常に検証し、連携の強化と協力体制の維持に努める。 ・各集会や生徒会による広報活動を通じて、大会日程および成績の広報に努め、学校全体の雰囲気や生徒の意欲を高める。 ・各部の部員数調査を年度当初と年度末に行い、部活動を変更した生徒数を調べ、関係教職員間で状況を共有する。また、各顧問と連携を図りながら、部活動の活性化と充実に努める。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	PTA活動の活性化	
重点課題	PTA役員会とPTA行事の活性化	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAの役員会では、行事等について積極的な話し合いが行われている。 ・PTA各行事への参加者が少ない。 ・役員の地域的な偏りがあり、副会長の人数確保が難しい。 	
達成目標	役員会の出席率	PTA行事への参加者数
	出席率75%	昨年より10%増
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA通信や学校のホームページを利用して活動を積極的に発信する。特にPTA行事の際は案内を各家庭に送るだけでなくホームページを利用して情報を受け取ることができるようにする。 ・一斉メールを活用した情報の共有を推進する。 ・役員より行事参加のはたらきかけを積極的に行う。 ・副会長の人数確保の為、クラス役員の人数を2名から3名に増加することも考えられる。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)